

## 輸入粗飼料の情勢

全酪連  
購買生産指導部  
購買推進課

### 北米コンテナ船情勢

ロサンゼルス・ロングビーチ両港では年末商戦に向け輸入量がピークを迎えるなか、混雑状況は悪化しており沖合でのコンテナ船の滞船はおよそ70隻となっています。滞船期間は最大で2週間程度となっており運航スケジュールに遅延が生じています。状況が悪化するなか、ロサンゼルス・ロングビーチ港への寄港を避けるため定期船の減便も行われ、予約していた船腹がキャンセルされるなど船腹の確保も混乱し始めています。

博多港や苫小牧港は米国からの直行便が少ないため、従来、上海や釜山などの積替港を経て日本に輸入されていますが、積替港でも混雑しており、スケジュールの大幅な遅延が増えています。8月にコンテナ取扱量世界第3位である、中国の寧波港において、新型コロナウイルスの感染者が発見され、ターミナルが一時的に閉鎖されました。以降、寧波港沖合での滞船数が増加したため、寧波港へ寄港する予定であったコンテナ船が上海港及び、釜山港への寄港を増やしたことより、上海、釜山でも沖合での滞船が増え、港も混雑するなど悪循環になっています。この結果、北米からの積替港である上海、釜山港にコンテナ到着後、日本に向け出港されるまで1か月程度足止めを食らうようなケースも頻発しています。

海上運賃については一部の船社でアナウンスされていた10月のGRI（海上運賃一斉値上げ）が実施され、100ドル-200ドル/コンテナ値上げされました。

11月も引き続きGRIのアナウンスがされており、今後も動向に注視が必要です。

### ビートパルプ

【米国】

21-22年産の生産は各工場で開始されており、来春まで続く見込みです。主産地である中西部では収穫が進み、地域によっては単収が上方修正されていますが、ビートの生産における影響は軽微で総生産量は例年並みとなる見込みです。

他方で米国では経済の回復などの要因により、各地で労働者の不足が顕著になっています。製糖工場での労働力不足も非常に深刻な問題となっており、ビートの加工処理が遅れ生産に支障を来す可能性が懸念されています。

## アルファルファ

### ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは4番刈の収穫が終盤を迎えています。3番刈は収穫中に発生した山火事の影響で、日光が煙で遮られ通常以上に圃場での乾燥に時間を要したため過乾燥気味な品質の中級品が多く発生しています。4番刈は良品の発生が期待されましたが、9月中旬にコロンビアベースン全域で降雨に見舞われたことから、雨当たり品が発生しています。

産地相場は、好調な中国向けを中心とする輸出需要に加え、旱魃の影響で、西海岸全体で牧草不足に直面する米国内の酪農家、肥育農家の強い需要に支えられ、下級品から上級品まで上昇を続けています。



(ワシントン産3番刈アルファルファ 9月下旬撮影)

### カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、6番刈が収穫されています。夏場は高温の影響で低成分品中心の発生となっていましたが、直近では気温が徐々に冷涼になっており、今後収穫されるものは成分が回復する見込みです。

ワシントン州、オレゴン州とPNWの需要が高まるなか、インペリアルバレーでも輸出向けを中心とする需要は強く、市場を牽引する中国、サウジアラビアは上級品だけでなく中低級品まで旺盛に買付を行っています。

### オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは3番刈の収穫作業が終了しています。収穫期に降雨があったため、雨当たり品が発生し、天候の安定を待って収穫された圃場では適期での収穫ができず、3番刈は中低級品の発生が中心となっています。

同州中部クリスマスバレーでも3番刈の収穫作業を終えています。産地では2番刈に

引き続き3番刈でも雨当たり被害が発生しており、上級品の発生は例年よりも少なくなっています。

産地相場については、高成分なアルファルファを求める内需と、輸出業者の間で競合しており、相場は軟化することなく高値のまま推移しています。

## 米国産チモシー

主産地であるコロンビアベースンでは2番刈の収穫が概ね終了しています。収穫期に山火事が発生した影響で、乾燥作業に通常よりも時間を要したことから、茶葉の混入や、色のくすんだ中級品の発生が中心となっています。

コロンビアベースンでは1番刈の収穫後、およそ25%のチモシー圃場が換金性の高いトウモロコシや大豆へ転作されたと見込まれています。また非灌漑でチモシーを栽培するアイダホ州は早魃の影響で21年産の生産量が大幅に落ち込んでおり、西海岸全体でのチモシーの生産量は例年に比べ大きく減少しています。この影響で2番刈の相場も上昇しており、現在1番刈と同等かそれ以上の高値で取引されています。

## スーダングラス

主産地インペリアルバレーでは、多くの圃場で21年産の生産を終えています。一部の生産者が収穫を続けています。

9月下旬、10月上旬と局地的な降雨があったため、一部の圃場で降雨被害が発生しています。2番刈の多くは茎の太い低級品の発生となっていますが、産地では自給飼料が不足した周辺地域の肥育農家を中心に低級品と雨当たり品が同レベルの価格帯で買付されています。21年産は作付面積減少に加え、降雨被害により、輸出向け品質の発生量が限られていることから輸出業者によっては、日本の各顧客の需要を賄う数量を確保できていない状況です。



(雨当たり被害を受けたスーダングラス 9月下旬撮影)

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地インペリアルバレーでは現在5番刈が収穫されています。7－8月に収穫された3番刈と一部の4番刈では収穫期の高温と湿度、降雨の影響で茎が固く、色がくすみ茶葉の混入が目立ちましたが、9月に収穫された4番刈は天候に恵まれ適期に収穫できたため、色目の鮮やかな、茎質の良い品質が生産されています。

21年産のスーダン及び、チモシーの生産量減少により、手ごろな禾本科牧草として、クレイングラスに対する引き合いは増えており、輸出向けでは特に韓国から需要が強くなっています。



（9月に収穫されたクレイングラス 9月下旬撮影）

## ストロー類

ペレニアル種のライグラスストローは21年産の収穫作業を終えています。主産地オレゴン州ウィラメットバレーでは早魃と作付面積減少の影響で生産量は例年比30%程度減少しており、産地相場は堅調に推移しています。

## カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジ地区では2番刈の収穫作業が折り返しを迎えています。作況は例年並みとなっています。

同州中部クレモナ地区は21年産の収穫を終えています。収穫中、近隣地区で森林火災があったため、煙が日光を遮り、通常よりも乾燥に時間を要したため、例年よりも色抜け品の発生が多くなっています。また当地区では非灌漑で生産しているため、早魃の影響を受けており、単収が例年比で40%程度減少しています。周辺地域の酪農家及び肥育農家においても自給飼料不足に直面しており、21年産は内需が産地相場を牽引しています。

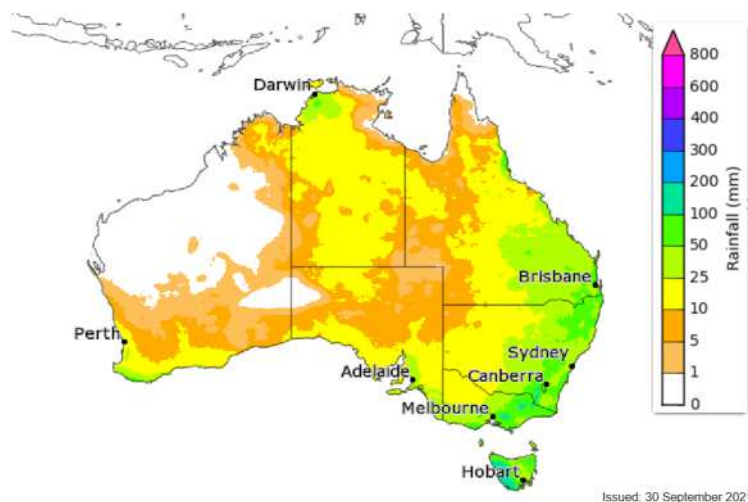
## 豪州産オーツハイ

9月に入りまとまった降雨があったため、全豪的に生育状況は順調で、各地域で21年産の収穫が開始されています。

西豪州では9月中旬から収穫が開始されています。生育期の降水量は地域で差があったため、生産地域で単収は異なりますが、これまで収穫されたものは天候にも恵まれ上級品が発生しています。一方で10月上旬から降雨予報が出ているため、降雨が通り過ぎるまでの数日から10日前後、収穫作業を一時中断する見込みです。

南豪州では多くの圃場で10月中旬までに収穫が開始される見込みです。生育状況は良好ですが、降雨量が十分ではなかったため、単収はわずかに例年を下回ることが予想されています。

東豪州は生育の早い北部の一部で9月下旬より収穫が開始されており、東豪州全域では10月中旬頃から収穫作業が本格化する見込みです。10月上旬に5日間に渡り100mm程度の降雨の予報がでおり、天候には注視が必要です。単収は例年程度になると予想されています。



10月の東豪州は100mm程度、その他多くの地域では25mm以下の降雨量が予想されています。(出典：オーストラリア気象局)

### 豪州海運情勢について

引き続き船腹確保や空コンテナ確保に苦戦をする状況が続いています。またシンガポール、上海、釜山といった積替港での混雑も改善は見られず1か月程度のスケジュール遅延が恒常化しています。

一部の船社は空コンテナの回転率を上げるため11月豪州出航分から日本到着後、本船から陸揚げされたコンテナをヤードに一定期間置くことができるフリータイムを大幅に短縮することを発表しています。

豪州発の海上運賃については各船社、毎月のように値上げを行っており、豪州産牧草の価格を押し上げています。

以上